



日本聖公会神戸教区 第96(定期)教区会 開会演説

主教 バジル 八代 智

1 主教按手式への感謝

まずはじめに、9月20日に神戸聖ミカエル教会で行われた神戸教区主教按手式・就任式に、教区内外から遠路はるばる約450人もの皆様方にお越しいただき、大いなる祈りと励ましと祝意をいただきましたことをこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

また式典長をはじめ神戸伝道区の皆様、神戸聖ミカエル教会の皆様の周到な準備のおかげで無事に按手式を迎えることができ、本当にありがとうございました。非常に多くの方々にお越しいただき只々感謝ですが、それだけにお越しいただいた皆様と充分お話することもできず、すまなく

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2026年
1月号

発行所

神戸教区事務所

TEL 078(351)5469

FAX 078(382)1095

<https://www.nskk-kobe.org/>



発行責任者

司祭 上原 信幸

印刷所

文明堂印刷所

思います。その分、巡錫で各教会に行かせていただく時間に、教会の皆様といろんなお話ができることを今から楽しみにしています。これからの8年間、どうぞよろしくお願ひします。

2 宣教150年を迎えるにあたり

来年はいよいよ神戸教区宣教150年を迎えます。言うなれば、私たちの神戸教区150歳の「お誕生日」といえるでしょう。それだけに当

日は150歳のお誕生日を盛大にお祝いしたいですし、すでに信徒の交わりの中にある各教会の歴代聖職・伝道師・信徒の皆様方に感謝するひと時としたいものです。

ただ、来年迎える宣教150

0年を大いに祝うだけではなく、事業委員長の瀬山会治司祭が「神のおとずれ」12月号で述べておられますように、「神戸教区内の各教会は、この10年間を振り返り、ここから宣教160年の未来に向けての新たな宣教のスタートと位置付けるビジョンと使命を神戸教区として示したい」との宣言を、私も大いに奨励したいと思います。

PDCAという表現が最近どこでも聞かれるようになりましたが、とくに多くの企業でイノベーションが求められる時に必ず実践されているフレームワークと言えるでしょう。トヨタの「カイゼン」や「現場主義」や「トヨタイズム」もこの徹底から築かれました。

Plan (計画) Do (実行) Check (評価) Action (改善) ですが、過去10年でここまで徹底して宣教活動に力を尽くしてきた教会はどれほどあるでしょうか。教会も企業も同じ方向を見続けて努力することは、全く同じだと思います。

「礼拝も伝道もお給料を貰っている司祭さんにお任せしとけばいいや」という教会があるとするならば、その教会は残念ながらこのサイクルを徹底しているとは決して言えないでしょう。聖職・信徒にかかわらず、その教会が丸となって少子高齢化の中でも様々なイベントや楽しい会を続ける努力をする限り、その教会には必ず求道者が与えられ、教会離れしていた信徒の子供たちも戻ってきてくれることでしょう。

過去10年、我々の教会は一体何をしてきたのか？
過去10年、それでみんな満足できたか？
過去10年、主日礼拝に参加して心から癒されたか？

こうした過去10年の各教会の歩みをしっかり評価して、次の10年に向けてさらにステップアップした宣教活動に、神戸教区としても全面的に協力したく願っています。

3 教区財政

現在、神戸教区のみならず日本聖公会各教区においても、教区財政難が問題となっています。教区のみならず各教会においても、会計が逼迫した状況が憂慮されています。戦後から高度成長期に至るまで、どの教会でも青年信徒がいっぱいいました。現在もなお、当時青年であった信者さんが自分の教会を一生懸命支えてくださっています。

教会の現状を考えた時、将来的に伝道区レベルの統廃合も悲しいかな議論せねばならなくなるでしょう。

この度、私が教区主教として選ばれたことに唯一メリットがあるとするならば、次に掲げる項目にも関係しますが、現在所属している八代学院から給与をいただいており、教区から給与を支給されないところにあるでしょう。財務部の皆さんの優しさから予算を計上していただいておりますが、私個人の考えとしては0でも一向にかまいません。主教として巡錫した時の交通費等はいただきますが、私の「人件費」を無くすだけでも、8年で五千万円近くも教区財政に寄与することができるとです。そこで得るであろう余剰金を牧会資金援助金や子育て世代の若手聖職に還元することができれば、私にとっても最高の喜びとなるのです。

今ひとつ、私が主教に按手される前から、多くの方々に



「いつ主教邸に引っ越しするの？」と聞かれました。現在の主教邸は王子公園駅のすぐ近くにあるようですが、それでも聖ミカエル大聖堂に行くには車で10分かかります。今現在は、かつて母が住んでいた聖ミカエル大聖堂から約200mほど、徒歩約2分の古いマンションに住んでおりますが、還暦を過ぎてからの引っ越しは勘弁してくれとばかりに、主教邸に移ることは考えておりません。逆にその主教邸を、関西に住む予定の聖公会信徒にお貸しすること、これも教区財政の一助となれば幸いです。

4 特任聖職

「特任聖職」と聞いても、信徒の皆様はあまりご存知ないでしょう。でも小学生時代から私を慕ってくれた、あの後輩聖職が、「オレは来年から特任聖職になる」と言い出して聞かないのです。「オレイきなりやないかい、オレも主教になったばかりやから、せめてもう1年待ってくれよ」と頼んだのですが、一度決めたら決して曲げない頑固者であることは以前から承知していましたので、神戸教区初となるパイオニアの彼を応援するべく今は考えています。

学院ですでにリモートによる特任聖職特別コースも設けられており、受講生も増えてきているそうです。

また私が英国に留学していた30年も前から、私が学んだ聖ステパノ神学校では、いわゆる“Working Priest”夜間コースがすでに行われており、仕事を終えた人や定年退職した50〜60代の地元の人たちが、教室が満席になるほど熱心に学んでおりました。今では特任聖職が当たり前の存在となり、教会離れしていた地元の仲間たちが友だちの特任聖職を手伝おうと、教会に戻ってきて奉仕する人も増えてきているそうです。

その後輩聖職は「自給している聖職者たち」特任聖職実践ガイド」という英書を翻訳して出版したほどです。で、「自分が最初になる」とその篤い思いも尊重したいです。

先日「特任聖職」の実現に向けて、現在聖公会神学院の校長をされている武藤主教様に相談しましたが、聖公会神

幸い、関西学院大学神学部を卒業して、現在、学校や諸団体で社会人として立派に働いている人たちが、神戸教区には10人近く存在しています。そんな彼らが近い将来、特任聖職として可能な限り土日の休みを教会奉仕や、言葉の礼拝だけではなく、サクラメントのお恵みに預かる奉

仕をしてくれたら、どんなに素晴らしいことでしょう。神学部を卒業した人たちの短期コースだけでなく、一般の他学部を修了して、現在、教会奉仕に専念してくださっている方々にも、このような教区財政に優しい特任聖職の希望者を切に望んでいます。かく言う私自身が学校勤務をしているこの30年間、学院から給料をいただきながら「協力司祭」として、教区財政に協力してきた者の一人として、特任聖職実現に向けて、皆様にご理解とご協力を望む次第です。

5 教区の将来に向けて

皆さんは今、各教会で主日礼拝に出席し、心から満足して癒されていますか？

今やキリスト教の教会以上に、心療内科が遥かに流行っている時代です。かつて、昔の司祭は「ゆりかごから墓場まで」信者さんと共に、喜びも悲しみも共に分かち合うことを最大の喜びとしておりま

した。しかし、今はどうでしょう、信徒の声に傾聴することなく、逆に信者さんに氣遣って貰っている聖職がないのでしょうか。これこそ現在の宣教伝道の限界と、私は認識しています。「信徒に優しく、かつ自分に一番厳しくあれ」とは私の父の口癖でしたが、信徒に厳しく自分に一番甘い「聖職」には、その辺のリトウリートを切に望みます。

一つの伝道区をただ一人で苦言を呈することなく、忠実に管理している聖職には、只々頭を下げる次第です。こうした方々の負担を少しでも軽減するために、来年度の人事異動をすることをご容赦ください。

宣教160年に向けて神戸教区に連なるすべての皆様と共に、これからもキリストの愛と赦しと癒しに満ちたキリストの僕として歩み続けることが出来ますよう、主の御守りと御導きをお祈りいたします。

(日本聖公会神戸教区主教)

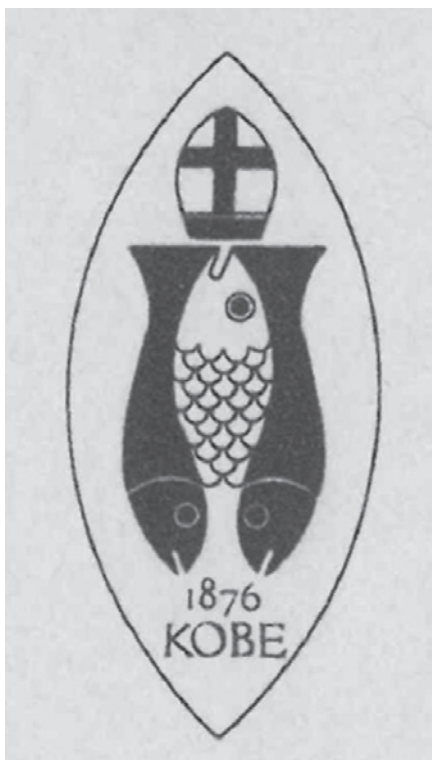
「宣教150年記念事業委員会」④

委員長 司祭 バルナバ 瀬山 会治

「ロゴ募集と献金のお願い」

皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様の教会と神戸教区の上に、神様の豊かな導きと祝福がありますようにお祈り申し上げます。さて、いよいよ神戸教区宣教150年の年を迎えました。この度、「宣教150年」を記念するロゴマークを募集いたします。詳細については、

主意書をご覧ください。このロゴマークは、記念誌をはじめ、記念事業に関係する印刷物などに用いる予定です。応募作品は、手書きのものでも委員会では修正・調整いたしますので、ご安心の上、奮ってご応募をお願いいたします。最終的な決定は委員会が行います。採用されたロゴを作成してくださった方には、感謝の気持ちを込めて記念品をお贈りしたいと考えております。



す。さらに、この機会に「宣教150年」記念献金をお願いいたします。

昨年、の教区会の開会礼拝で捧げられた信施金は、宣教150年事業のために用いられることがすでに決議されており、ありがとうございます。ありがとうございました。

この度、専用の献金袋と主意書を各教会にお送りいたしますので、7月末日までに記念感謝献金をお捧げくださいますようお願い申し上げます。お捧げいただいた献金は、記念事業として、9月23日(祝・水)に実施される記念礼拝やイベント、さらには記念誌の作成などの事業に用いられます。

神戸教区宣教150年の節目に当たり、私たちは信仰の先達の方々に感謝しつつ、未来に向けた教会宣教のための確かな一歩となるよう、皆様方のご理解、ご協力、そして何よりもお祈りを切にお願いいたします。

本の紹介

『意味は待つことにある』

～アドベントのマナ～

ポーラ・グッダー 著・中原 康貴 訳



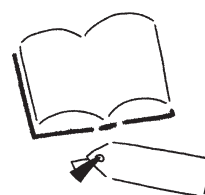
「辛抱さの喪失」という言葉
葉を耳にしたことがありま
す。現代はとても便利になり、
欲しいものも情報もすぐに手
に入るようになりました。そ
の一方で、私たちは「すぐに
叶わないこと」や「すぐに動
き出せない状況」を受けとめ
る力が弱くなっているのでは
ないか、そんな指摘を聞いた
ことがあります。
今回ご紹介する本は、そう
した今の時代にあって「待つ
こと」に目を向けた一冊で
す。聖書に登場する人々の歩
みをたどりながら、「待つ」

という行為がどんな意味を持
ち、どんな恵みをもたらすの
かを、優しく教えてくれます。
著者のポーラ・グッダー
は、英国で広く知られる聖書
学者です。豊かな知識と落ち
着いた洞察をもって「待つこ
と」をさまざまな角度からと
らえ、その大切さをあたため
く語りかけてくれます。

アドベントには、キリスト
の降誕を待ちながら未来に希
望を向けることと、終わりの
時の完成を思いながら過去

を振り返るといふ、二つの側
面があるといわれます。本書
はその両方をやさしく示しつ
つ、たとえ困難のただ中に
あっても、希望とともに歩も
うとする生き方をそつと後押
ししてくれます。黙想や祈り
の時間の中で、そのメッセー
ジが静かに心に染みていきま
す。聖書原典への丁寧な読み
込みや最新の研究成果が背景
にあります。グッダーの文
章はとても読みやすく、専門
的でありながら身近に感じら

れる表現が特徴です。また、
その魅力を損なわず、自然で
わかりやすい日本語に訳して
くださった中原司祭の表現力
に、深く感銘を受けました。
みなさん、ぜひ一読くだ
さい。
(司祭 林 和広)

2月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2026年2月5日(木) 午前10:30

場所 神戸聖ミカエル大聖堂

司式 主教 八代 智

説教 執事 宮田 裕三

どなたでもいらしてください

＊2月の記念逝去教役者

3日	司 祭	ハリー	ウッドワード
3日	司 祭		栗 飯 原 信
4日	伝道師		横 田 秋 生
5日	司 祭	パークレー	バックストン
5日	司 祭	ヤコブ	牧野 興三郎
5日	主 教	モーセ	村 尾 昇 一
6日	司 祭		竹 内 宗 六
7日	宣教師	ホノリア	ウォージントン
11日	司 祭	ヨハネ	中 道 政 市
12日	伝道師	ルツ	小 南 ア サ
12日	伝道師		高 木 め ひ
13日	宣教師	フローレンス	フ ァ ギ ル
16日	司 祭	ジョージ	ブ ラ イ ド ル
17日	司 祭	ジョージ	ポ ー ル
20日	司 祭	ヨセフ	田 中 愛 次
23日	伝道師		西 村 廣 子
25日	伝道師		松 山 ア サ
—	伝道師	アリス	パ ー カ